

特 集 山元町 合戦原遺跡の壁画の移設

かつせんはら

壁画の発見と描かれた内容

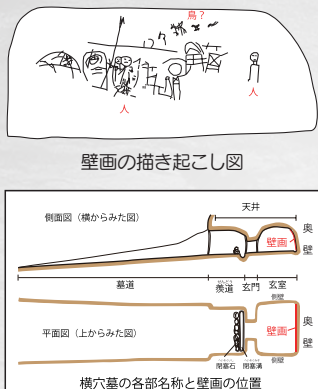


遺体を安置した玄室奥壁の壁画。大きさは幅3.6m、高さ1.7mほどです。

横穴墓に刻まれた来世への願い

古墳時代から奈良時代にかけて作られた横穴墓54基の中で玄室の規模が最大の38号墓の玄室の奥壁に、複数の人物や鳥とみられる図柄が刻み込まれた壁画が発見されました。壁画は当時の人々の他界観・来世観を示すとされ、この壁画の詳細な内容も解明が待たれます。

これほど多様な図柄が描かれる例は東北地方でも珍しく、貴重な発見となりました。



壁画移設の経緯と経過

【移設の経緯と経過】

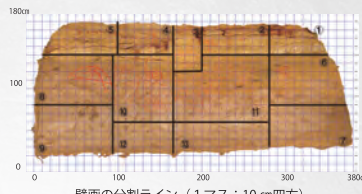
防災集団移転予定地内の発掘調査で発見された壁画の歴史的・美術的価値の高さは、マスコミ等の報道を通じて全国に発信され、現地説明会には約450名の見学者が詰めかけました。

そこで、壁画の現地保存と被災者の迅速な住宅再建との両立が検討されました。その結果、現地保存のかわりに移設して保存することに決められました。

【移設方法の決定】

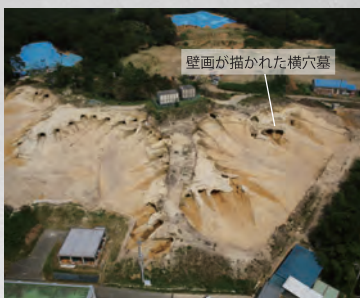
壁画の下地である岩は軟弱で脆く、水分を多く含むことから、取り出す際に壁画と一緒に崩れる危険性が高いものでした。この悪条件での移設は**日本初の試み**で、新たな移設方法を速やかに確立するため、文化庁や専門家とともに数十回の実験と検証を重ねました。

その結果、壁画は下地ごと薬剤を塗布させ強化した後、13分割して各壁画を厚めに剥き取り、横穴から外へ搬出することに決められました。



【壁画分割ラインの設定理由】

- ・横穴(最大高120×幅100cm)から搬出が可能。
- ・地層の境目を避ける。(掘削から壁画が崩れる危険性)
- ・分割を100cm四方より小さくすると、壁画が裂ける危険性が低いという実験結果。
- ・図柄の価値をなるべく損なわないよう線が多い場所を避ける。



防災集団移転予定地内で発見された横穴墓群

移設の順序と工程

壁画の取り出しは、平成28年5月9日から30日(21日間)に実施しました。作業は**1・2**壁画の保護と作業空間の確保、**3~5**13分割しての壁画の取り出し、**6・7**壁画の養生と運搬の順序で行い、無事、壁画の取り出しに成功しました。この方法は、**日本初の例**として平成28年8月30日の世界考古学会議で発表されて話題となり、参加した約1,800名を通して、**86ヶ国・地域**へと発信されました。

1 壁面の強化・養生



2 作業空間の確保(天井掘削)



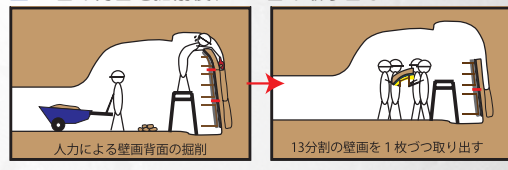
3 13分割の線を切り、仕切りを設置



4 バックアップの設置(壁画表面の固定)



5 壁面の背面を掘削後、各壁画の取り出し



6 養生と箱詰め



7 運搬して保管



壁画の今後

現在、分割した13枚の壁画は、京都の専門業者によりそれぞれを強化し、1枚の壁画に復元するため接合中です。町では、この壁画を平成29年秋頃に歴史民俗資料館で一般公開できるよう、準備を進めています。

平成28年度 宮城の発掘調査パネル展

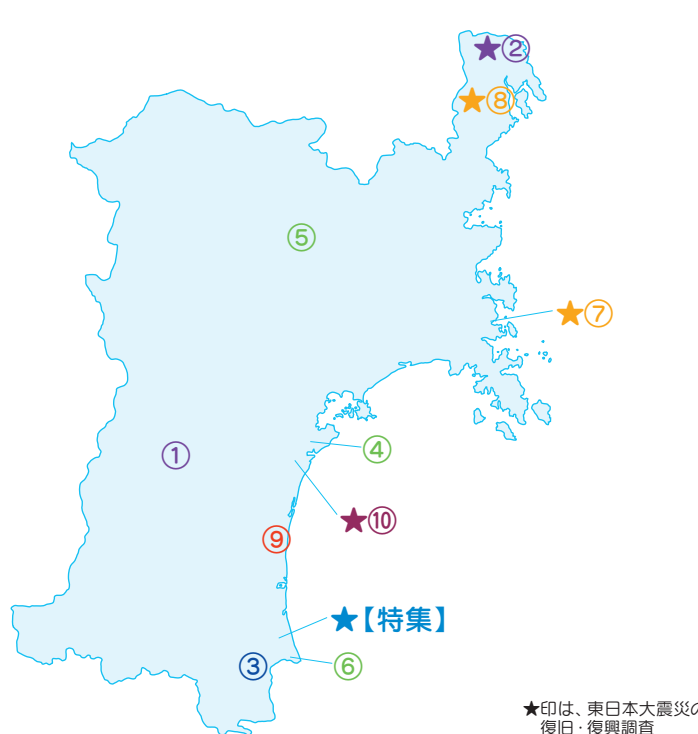
宮城県教育庁文化財保護課

宮城県には、旧石器時代から明治時代まで約6,200ヶ所の遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことが私たちの責務と考えております。

県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、やむを得ず開発に伴って姿を消す遺跡については、発掘調査を実施して記録に残しています。特に東日本大震災以降は、復興事業に伴う調査の増加に対し、全国から派遣された職員の支援を得て発掘調査に取り組んできました。

このたび、平成28年度に行った特に注目すべき遺跡や、復興事業に伴って調査した遺跡の成果にくわえ、世界でも話題を呼んだ山元町合戦原遺跡の壁画移設のようすをパネルで紹介することにしました。この機会に遺跡に親しみ、文化財の保護に対して理解を深めていただければ幸いです。

今回の展示にあたって快く御協力をいただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



| 時代 | 世代 | 日本の主な出来事 | パネル番号 |
|----------|-------------------------------|---|--------|
| 旧石器 | 約650万年前 約3万年前 | アフリカで人類が誕生する 後期旧石器時代が始まる | ① |
| 縄文 | 約1万6千年前 約5000年前 | 土器・弓矢が出現する 三内丸山遺跡(青森県)で集落が営まれる | ★② |
| 弥生 | 紀元前400年頃 | 東北地方で米作りが始まる | ③ |
| 古墳 | 紀元後300年頃 | 豪族が盛んに古墳を造る | ★【特集】 |
| 飛鳥 | 607年 645年 | 推古天皇、小野妹子を隋に遣わす(遣隋使) 大化の改新が起こる | ★④ |
| 奈良 | 710年 724年 752年 | 平城京(奈良市)に都を移す 多賀城が築かれる 東大寺の大仏が完成する | ⑤ ⑥ |
| 平安 | 794年 869年 894年 1167年 | 平安京(京都市)に都を移す 貞観大地震で多賀城が大きな被害を受ける 遣唐使の派遣が停止される 平清盛が太政大臣となる | ⑦ ⑧ |
| 鎌倉 | 1192年 1274・1281年 | 源頼朝が征夷大将軍になる 文永・弘安の役(元寇)が起こる | ⑨ |
| 室町 | 1338年 1467年 | 足利尊氏が室町幕府を開く 応仁の乱が起こる | ★⑩ |
| 安土 桃山 | 1590年 1600年 | 豊臣秀吉が天下を統一する 仙台城の築城始まる | |
| 江戸 | 1603年 1611年 | 徳川家康が江戸幕府を開く 慶長三陸地震津波で仙台平野が大きな被害を受ける | |
| 明治 | 1868年 1876年 | 明治維新 明治天皇が東北を巡幸する。 | |

東日本大震災からの復興と遺跡調査(1)

復興事業の促進と遺跡保護の両立を目指して

東日本大震災によって甚大な被害を受けた沿岸市町では、土地区画整理などの新たな街づくりや、道路建設、鉄道移設などの大規模な復興事業が本格化し、また、個人住宅や企業の再建等も進められています。

こうした復興事業の計画地に遺跡が含まれることが多くありますが、県では、被災地の一日も早い復興と地域のかけがえのない歴史的遺産(遺跡)の保護の両立を目指し、関係機関と協議を重ね、迅速な調査に取り組んでいます。

◎調査体制の強化

平成24年度以降、全国から発掘調査専門職員の派遣を受けて調査員を増員し、復興事業に伴う調査に対応しています。

平成28年度は、調査を担当する県教育委員会に、計5名の専門職員の方が派遣されています。

【H28派遣職員】(5県5名)

- 山形県 新潟県 群馬県
- 兵庫県 岡山県

※県職員の内訳

- 文化財保護課調査担当職員 21名
- 東北歴史博物館(協力) 1名
- 多賀城跡調査研究所(協力) 1名

| | 宮城県(※) | 派遣職員 | 計 |
|----------|--------|------|----|
| H24(上半期) | 23 | 9 | 32 |
| H24(下半期) | 23 | 17 | 40 |
| H25 | 23 | 24 | 47 |
| H26(上半期) | 23 | 17 | 40 |
| H26(下半期) | 23 | 18 | 41 |
| H27 | 23 | 12 | 35 |
| H28 | 23 | 5 | 28 |

宮城県教育委員会

◎発掘調査の迅速化

復興事業に伴う調査を実施するにあたり、通常の発掘調査基準を弾力的に運用することで、調査期間の短縮を図っています。

具体的には、原則として、遺跡が壊される範囲のみを調査対象とし、盛土施工部分や工事の掘削が及ばない部分の調査等を省いています。

東日本大震災からの復興と遺跡調査(2)



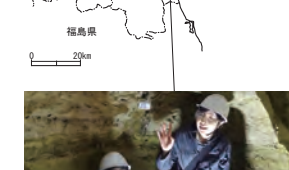
集団移転の集会所建設に先立って、縄文時代・古代の聖火遺跡や土坑跡を調査(気仙沼市山下遺跡)

三陸沿岸道(復興道路)建設に先立って、中世の山城遺跡を調査(気仙沼市小屋館遺跡)



調査成果を一般公開(気仙沼市石川原遺跡)

国道398号線(復興道路)改築に先立って、中世の板碑群を調査(女川町松葉板碑群)



集団移転に先立って調査で発見された壁画の移設方法を説明(山元町合戦原遺跡)

被災した農地の復興に先立って、古代の道路跡を調査(多賀城市山王遺跡)



埋蔵文化財は、国や地域の歴史と文化の成り立ちを明らかにするうえで欠くことのできない国民共有の財産であり、また、これらを解明するうえで発掘調査は必要不可欠なものです。このため、文化庁では「発掘現場から文化力」のロゴマークを作成し、広くロゴマークを推奨し活用することで、国民や地域住民に埋蔵文化財や発掘調査に対する正しい理解と協力を促進することを目的としています。背景のカラーは発掘調査にふさわしい茶系統を使用しています。

縄文時代 最古の土器が示す食生活の変化



①野川遺跡(仙台市)

縄文時代草創期(約1万1000年前)の土器や石器が1,500点以上出土しました。土器は遺跡からまとまって出土したもので、県内最古のものです。

石器に加え、新たに煮炊きの道具である土器が使われはじめ、生食が困難な魚介や野菜が食用となるなど、食生活が豊かになりました。

いろいろな種類の土器



ゴミ穴から探る縄文人の食生活



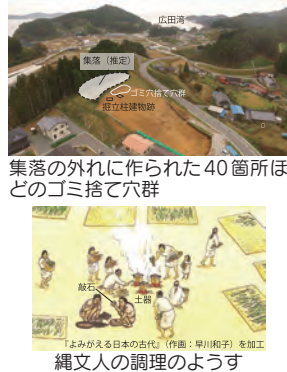
ゴミ捨て穴は円形で、長径1.2m、短径1.1m、深さ0.4mほどです

②台の下遺跡(気仙沼市)

【復興調査】漁業集落防災機能強化事業

縄文時代後期(約3,500年前)の掘立柱建物跡2棟のほか、ゴミ捨て穴がみつかりました。

穴には、煮炊きした土器の細片や木の実などを割った敲石などの調理器具が捨てられており、その使い方から、縄文人の食料や調理の仕方を垣間見ることができます。



縄文人の調理の様子

弥生時代 数少ない弥生時代の掘立柱建物跡

③台町遺跡(丸森町)

阿武隈川右岸の丘陵裾で、弥生時代の掘立柱建物跡1軒が見つかり、屋根を支えた柱の穴や、生活していた床を確認しました。

弥生時代の建物のおよびわかる遺跡は、国史跡である栗原市の山王団遺跡など県内で数例しかない、貴重な発見です。



直径約4.5mの掘立柱建物跡で、屋根を支える柱の穴を3個確認しました



復元された掘立柱建物(静岡市登呂遺跡)

奈良～平安時代 文字が書かれた檜扇

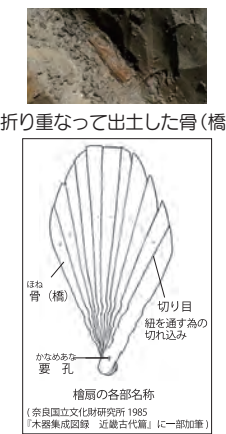


出土した骨(橋)を組合せて復元

④特別史跡多賀城跡(多賀城市)

細長く薄い板材「骨(橋)」を重ねて綴じた木製の扇である檜扇が出土しました。「骨(橋)」の両面には、多くの文字が書かれ、漢字の「誦」「誓」を練習したとみられる箇所もあります。

奈良・平安時代の陸奥国府多賀城に勤める役人の持ち物と考えられ、文字を書きとめるために使ったことがわかる興味深い発見です。



骨(橋)の両面には、多くの文字が書かれ、漢字の「誦」「誓」を練習したとみられる箇所もあります。

集落跡から発見された大型建物跡



掘立柱建物跡16軒と掘立柱建物跡7棟などからなる集落跡(部分)

⑤清水山I遺跡(栗原市)

奈良・平安時代の集落跡から、大型の掘立柱建物跡と掘立柱建物跡が発見されました。

大型の建物跡は、当時の豪族の居宅や役所・寺院を構成する建物であることが多く、今後この建物の存続時期や構造などを分析し、この集落での使われ方や、役割を明らかにしていく上で、重要な手がかりとなりそうです。



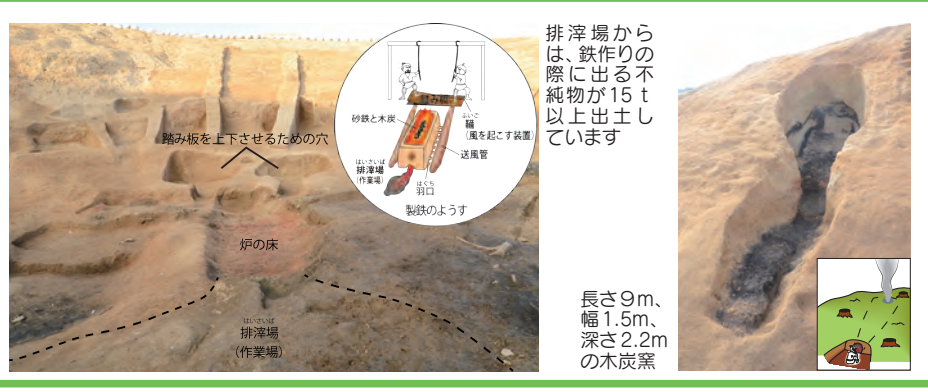
東西15m、南北4.5mの大型の掘立柱建物跡

古代陸奥国の官営製鉄所

⑥川内遺跡(山元町)

平安時代の製鉄炉跡3基、鉄作りの燃料である木炭を作る窯跡5基、住居や工房と考えられる掘立柱建物跡3軒などを発見しました。

奈良・平安時代の福島県相馬地方から巨理郡は、古代日本有数の製鉄地帯であり、川内遺跡もその一部を担っていたことが分かりました。



排滓場からは、鉄作りの際に出る不純物が15t以上出土しています

長さ9m、幅1.5m、深さ2.2mの木炭窯

鎌倉～室町時代 板碑にこめた人々の祈り



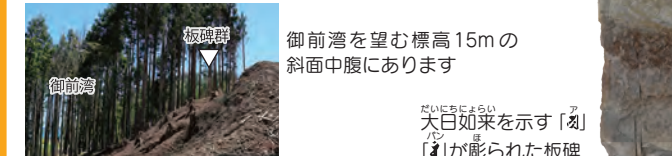
板碑は、東西7m、南北4mの平場にまとまって並んでいました

⑦松葉板碑群(女川町)

【復興調査】御前浜復興道路事業

室町時代の石で作った供養塔である板碑11基を発見しました。調査の結果、御前湾を見渡す丘を削り出した平場に並べて立てたことが分かりました。

近親者を供養するために板碑を立てた、当時の風景がしのべれます。



御前湾を望む標高15mの斜面中腹にあります

姿を現わした中世の山城



堀跡1は、丘陵を切断してつくられています。長さ54m分、幅5m、深さ1.5m確認しました。

⑧小屋館城跡(気仙沼市)

【復興調査】三陸沿岸道建設事業

現在の気仙沼市付近を治めた熊谷氏の一族による築城と伝わる鎌倉・室町時代の山城です。

調査では、防御施設である二重の空堀跡や石の武器である飛礮などを発見しました。史料や伝承によって伝えられてきた山城の実態が少しずつ明らかになりつつあります。



鳥瞰図(推定復元)

江戸時代 伊達家有力家臣の屋敷跡



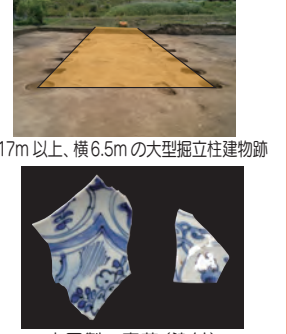
屋敷は、五間堀川と志賀沢川の合流点という水運の重要地点につくられました

⑨下野郷館跡(岩沼市)

伊達政宗から名取郡矢野目300石を拝領した佐藤氏・奥山氏の屋敷と伝わります。

調査では、江戸時代初めの井戸跡・舟着き場のほか、大型の掘立柱建物跡や高級品である中国製の青花(染付)が発見されました。

伊達家に仕える有力家臣の高い家格と豊富な財力がしのべれます。



縦17m以上、横6.5mの大型掘立柱建物跡

中国製の青花(染付)

明治時代 近代宮城の土木遺構



真山堀と船溜まりとの交差点のコーナー部を確認しました

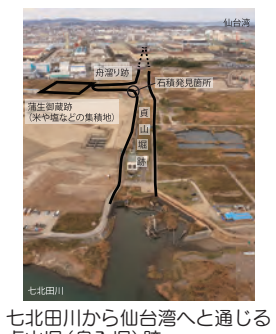
⑩真山堀(仙台市)

【復興調査】土地区画整理事業

明治時代以降の護岸の石積を長さ15m、高さ1.5m確認しました。

護岸は上下で石の積み方が異なり、古い下部の切石積から新しい上部の急傾斜で不整形の石積に積み直されました。

堀は改修を重ねながら明治時代にも利用されていたことがわかりました。



七北田川から仙台湾へと通じる真山堀(舟入堀)跡

用語解説 ◆青花:白地に青い模様のある磁器。国府:国を治める役所。陸奥国は724年以降、多賀城におかれた。壁面:建物や洞窟の壁・天井などに描かれた絵画。

協力(五十音順) 岩沼市教育委員会(下野郷館跡)、女川町教育委員会(松葉板碑群)、栗原市教育委員会(清水山I遺跡)、気仙沼市教育委員会(台の下遺跡、小屋館城跡)、仙台市教育委員会(真山堀)、多賀城跡調査研究所(多賀城跡)、東北大学大学院文学研究科考古学研究室(野川遺跡)、丸森町教育委員会(台町遺跡)、丸森町教育委員会(合戦原遺跡、川内遺跡) 文化財保護課のホームページアドレスは、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/bunkazai/>